

# 環境の整備に向けて



昭和37年(1962)6月の日本鉱業尾小屋鉱業所(『愛蔵版 ふるさと写真館』より)

昭和七年(一九三二)に日本鉱業株式会社の経営となった尾小屋<sup>こや</sup>鉱山は、昭和四十六年には全鉱区が閉山となった。資源<sup>か</sup>涸が原因であった。昭和三十七年には経営権を系列の北陸鉱山株式会社に移して経営を縮小していたが、操業を継続できなくなったのである。

このような中、<sup>かけはしがわ</sup>梯川からカドミウムが検出された。昭和四十三年、厚生省は富山県のイタイタイ病の原因を神通川上流<sup>かみおか</sup>神岡鉱山にあると特定した。これを機に通産省名古屋鉱山保安監督部が梯川を調査したのである。報告を受けた石川県も調査に入ったが、その内容が公表さ



閉山反対を訴える労組員(金沢市)(『愛蔵版 ふるさと写真館』より)



カドミウム汚染の県の公表を伝える記事(昭和45年6月12日付け北國新聞)

れたのは、昭和四十五年のことであった。梯川流域の詳細な土壌調査が行われたのは昭和四十九年。結果、一四か所の生産米から、食品衛生法の基準1 ppmを超えるカドミウムが検出された。これは食用に供することができないとされる濃度であった。汚染は土壌にまで及んでいたのである。原因は尾小屋鉦山採掘事業に伴う排水であった。石川県では、これに対して農用地土壌汚染対策地域を指定し、昭和五十二

年から公害防除特別土地改良事業に着手した。工法は土深二〇センチの土を入れ替える客土であった。竣工は昭和六十二年、十二年の歳月を要した。総事業面積は四五九・七ヘクタール、当時の小松市の全耕地の一〇分の一に当たる。総費用は九七億円、日本鉦業・北陸鉦山が約四割、国県などが約六割の負担であった。カドミウムによる農地汚染は大規模な土地改良事業によって一応の成果を上げることができた。だが、現在も倉

谷坑水処理場や金平町の赤目坑水処理場に於いて坑道から流れ出る水の中和处理作業が続けられている。一方、消費社会が排出する膨大な産業廃棄物からの環境保全は喫緊の事業であり、当市を含めた南加賀地域の産業廃棄物施設と運用について総合的に進める課題をもっている。県の計画はあるが、今のところ具体的には進んでいない。

(山本吉次・山前圭佑)



金平町公民館前に建立された公害防除特別土地改良事業竣工碑「焕然一新」は面目を一新するの意